

医療健康科学研究科（修士課程）の3ポリシー

【教育の理念】

医療健康科学研究科修士課程の教育理念と目的は、診療放射線学に関する高度な研究能力を有し、かつ医学的情報に基づく適正な医療画像処理能力や画像検査遂行能力、放射線機器の線束管理・放射線管理・治療線量管理能力を備えた専門家を養成することである。

診療画像学系の3コース、（診療画像学コース、分子イメージング解析技術者養成コース、がん地域遠隔画像診断支援技術者養成コース）と、医用計測学系の2コース、（医用計測学コース、医学物理士養成コース）の5コースが開設されている。

このうち、診療画像学系は画像処理による小病変検出率の向上を目標とする医用画像情報学分野と、医学的知識及び疾病による異常所見の認識能力の向上による機能的かつ有効的な検査遂行を目標とする診療画像技術学分野に分かれる。また、医用計測学系は放射線計測学分野、放射線治療分野の2分野に分かれ、放射線関連分野において必要となる計測技術や得られたデータの処理や解釈法を研究し修得する。

これらの教育課程により、診療放射線技師の指導者として、また医療関連企業の画像処理技術者として活躍できる人材の養成を目指している

【修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

医療健康科学研究科修士課程は、教育の理念に基づいて定められた下記の3つの能力を身につけ、2年以上在学し、30単位以上を修め、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文を提出してその審査および最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、学位を授与する。

なお、「修士」の学位の質的保証のため、カリキュラム・ポリシーを綿密に履行することを十分意識してカリキュラムを構築し、学位の客観的な保証を行う。

（DP1）高度な専門分野の知識や技能の活用力

専門分野に関する高度な学識と、幅広い知見を身につけている。また、それらを総合的に活用する汎用性を発揮し、専門分野における先導者として、特定の学問領域を中心として、広く社会に向けて新たな知見や価値を創造・提案し、還元していくことができる。

（DP2）情報分析、課題設定および問題解決能力

自立した研究者として、独創的な観点から課題を設定し、専門的な学識や技能を用いながら継続的な研究遂行と研究結果の蓄積・取れんを行うことができる。また、最先端のツールや手法を駆使し、専門情報を収集するだけでなく、それらの分析によって、今までにない知見を導き出すことのできる高度な判断力を有する。

（DP3）コミュニケーション能力

学術論文執筆や学会発表などを通じて、自らの独創的な研究結果や新たな知見を国内外の学界に発信すると同時に、他者の考えと価値観を尊重しつつ、専門的な知見から論理的に意見を述べるなど、主体的に協働することができる。また、研究倫理を踏まえ、適切な方法やツールを用いて自らの研究業績を発信し、自ら導き出した新知見の社会的な活用や定着を模索することができる。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

医療健康科学研究科修士課程は、診療放射線学領域において、多岐にわたる医療情報と医療画像情報に関わる専門性の高い診療放射線技術者の養成を目的とする。

本専攻の教育課程は診療画像学コース、分子イメージング解析技術者養成コース、がん地域遠隔画像診断支援技術者養成コース、医用計測学コース、医学物理士養成コースの5つから成り、診療画像学コースにおいては医用画像情報学領域と診療画像技術学領域にまたがる科目を開講している。これら5コースの教育課程は、診断・治療・安全管理など診療放射線科学の広い分野における専門知識や研究方法を修得できるよう編成されている。指導教員による研究指導は入学時から学生個人ごとに開始される。

さらに、情報化社会の無限に溢れる情報から論文盗用等が行われないよう、カリキュラムの全ての要素の中で研究倫理に関する意識の醸成を図る。

教育内容、教育方法、評価については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 講義科目は、専門基礎力および学術研究技術の基礎を涵養し、理論的実践的基礎を築くために開講する。
- 2) 演習科目は、専門領域・研究課題に応じて修士論文・課題研究の作成上必要とされる指導や議論を繰り返すことにより、ち密な研究指導を行う。
- 3) 1～2の集大成として提出される修士論文を完成させ、それについて審査及び最終試験を実施する。

2. 教育方法

- 1) 講義科目では、豊かな専門知識と発展的な研究能力を体得し、少人数での個別・グループ形式で授業を行う。
- 2) 演習科目を中心とする、修士論文の作成指導においては、教員と学生の間で「学位授与の方針」および「学位論文審査基準」を共有し、密接なコミュニケーションをとりながら実施する。
- 3) それぞれの授業科目を組織的に履修することにより、専門性を追求しながらも狭量な思考に偏らないよう、指導教員を中心に指導を行う。
- 4) 修士論文の審査にあっては、主査1名と副査2名以上で構成される審査委員により、「学位論文審査基準」に則り厳格な審査がなされる。最終試験においては、「学位授与の方針」に基づき、学位授与に必要とされる専門的な学識、技能、研究能力、語学力を身につけていることを詳細に確認する。
- 5) 研究倫理教育は、研究科・専攻に拠らない一般的な内容についてはeラーニングなどの方法を用いて広く提供し、各専門分野特有の研究倫理については、研究者として自立して研究を遂行できるよう、研究指導を通じて補完する。
- 7) 学生調査・アンケート等の結果に基づく客観的な評価指標によって研究科で検証をおこない、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 評価

医療健康科学研究科修士課程では、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）の3つのポリ

シーに基づき、学生の入学時から修了後までの成長を視野に入れ、機関レベル（大学院）、教育課程レベル（研究科・専攻）の2段階のレベルで学修成果の評価・測定を行う。

4. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎:特に重点を置いている ○:重点を置いている

授業科目等	履修単位	配当学年	DP1	DP2	DP3	各科目等のねらい
講義科目	2	1・2	◎			専門分野の知識および情報収集・分析などの研究活動上必要な研究手段・手法について体系的に身につける。
演習科目	2～4	1・2	○	◎	○	個別の研究テーマに基づき、指導教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行い、修士論文に役立てる。
実習科目	該当科目なし					
修士論文	—	—	○	◎	◎	2年間の学修の集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する。
研究倫理教育	—	1	○	○	◎	研究者として求められる基本的な研究倫理を身につけ、意識して研究活動を行う。

【入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

高度に発展する医療に対応するためには、最新の知識と技術のみならず、医療環境を取り巻く社会的状況に対する知識と高い人間性を備える必要がある。本修士課程は、このような状況に対応でき得るように診療放射線技師の資質をより発展させると共に、保健衛生、医療等の分野、理工学分野の出身者で放射線技術科学分野の学修に強い関心と意欲をもつ者に対し、この分野の専門性を付与することを目的としている。そのため、医療技術および自然科学領域についての十分な基礎学力を有し、医療技術科学への貢献・寄与に強い熱意をもち、日本国内にとどまらず海外も含めたこの分野の先進的な研究に対しての学修意欲及び研究意欲の高い学生を適正かつ公正に選抜するため、多面的、総合的な視点による入学者選抜を行う。

1. 求める学生像

(AP1) 放射線技術分野に関わる知識や技能を幅広く修得し、大学院での学修に必要な基礎学力を有している。

[知識、理解、技能]

(AP2) 入学を希望する本研究科または専攻で継続する研究の成果を専門的知識や技能を社会に還元し、貢献しようとする強い意欲と目的意識を持つ。[意欲、関心、態度]

(AP3) 地域社会、国際社会、産業界の事象について主体的に課題を設定し、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく根拠をもって独創的な論理を展開することができる。[思考力、判断力、表現力]

(AP4) 多様な他者の考えや価値観を尊重して協働しつつ、自らの研究業績を適切なツールを用いて発信する意欲を持つ。[主体性、多様性、協働性]

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎:特に重点を置いている ○:重点を置いている

入学試験制度	選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学試験制度のねらい
一般入学試験 (学内推薦入学 試験を含む)	出願書類	○	◎	◎		学士課程レベルの基礎的な専門知識があると認められる者に対し、研究に必要な専門知識や語学力を重視した選抜を行う。筆記試験は記述式で行い、専門科目試験、外国語試験が実施される。面接試験では、専門知識と研究意欲の確認等を行う。
	筆記試験	◎		○	○	
	面接試験	◎	◎		○	
社会人特別 入学試験	実施していない					
外国人留学生 入学試験	実施していない					